

# 学びの芽育 カリキュラム





# 学びの芽育カリキュラム

## 1. 本講座の概要とねらい

「学び」の基礎として、コミュニケーションをとおして、生徒本人の特性や得意・不得意、保護者のニーズなどを把握し、それらに応じた学びの方法を一緒に見つけたり提示したりする。自分自身の思考や心を整理するために、「言葉にする力」を軸に双方向の講座を展開する。そういったやり取りのなかで、はじめはオーダーメイド的に生徒一人一人へのオリジナル講習を行い、いずれは、生徒自身が自分で自分の学習計画や学習プログラムを「セルフメイド」できるようになることにつなげていく。生徒本人が自分自身の特性や興味を認識し、興味を持って、自主的かつ積極的に学びに取り組める分野や取り組み方を見つける。そして、自立学習や勉強の習慣化へつなげることをねらいとする。

## 2. 到達目標

生徒・保護者共に、生徒自身が持つ特技・才能・可能性を見出し、それぞれに合った方法で継続的に自己ベストを更新していけるスキルを身につける。そのことをとおして、自身の目標設定をできるようになる。そして、そういったことが、将来の夢を見つけるきっかけとなる。

## 3. キーワード

コーチング・ティーチング・教育・福祉・オーダーメイド・セルフメイド・言葉（言葉にする力・言語化力）・才能・自立学習・勉強の習慣化・カード・学習ゲーム・自己ベスト・成功体験・時間管理・非認知能力

## 4. 一般的な講習の進め方と方法

事前に保護者からお話しいただいたことをもとに、生徒本人との会話をとおしてコミュニケーションをはかる。

コミュニケーションをとおして、その日、取り組む課題 1~3 つを生徒本人が決める。必要に応じて、決めた課題にどのくらいの時間がかかるかを生徒本人が考え、予測を立てる。その予測をもとに、その日取り組める現実的な課題を選ぶ。

選択した課題に対して、予測した時間と実際にかかった時間の差を見える化し、意識することで、時間感覚を醸成し、時間管理の力につなげる。

コミュニケーションをとおしたライブ感・臨場感に重きをおく。

宿題についても状況を見つつ、生徒本人が自分で決める（課題設定する）よう促す。

\*生徒の適性や状況に応じて必ずしもこの通りにならないこともある。



## 5. 講習計画（体験は最大 4 回まで可能）

### 1 回目（体験）

- ①双方の自己紹介をとおして、生徒の個性や得意なことなどを把握することで学びの種を見つける。
- ②体験の 2 回目以降や本講座を受ける場合の講習の進め方などのオリエンテーションや体験を行う。（カードを使った学習ゲームの導入など）
- ③時間があれば、会話を通して相手に「伝えたこと」を文字や文にすることで「言葉にする力」の導入を行う。本人の習熟度やその日の状況に応じて、本人が話したことを講師がテキスト（文字）化する。

### 2 回目（体験）

- ①前回からの出来事や印象に残ったことなどを軸に会話をとおしてコミュニケーションを図り、学びの種を見つける。
- ②カードをつかって学習を楽しめる方法を教示する。  
（英単語や漢字を使った神経衰弱や連想ゲームなど）
- ③会話を通して相手に「伝えたこと」を文字や文にすることで「言葉にする力」の導入を行う。状況に応じて、本人が話したことを講師がテキスト（文字）化する。

### 3 回目（体験）

- ①2 回目までに見つけた生徒独自の学びの種を軸に生徒本人に合った学びの方法を提示したり、「4. 一般的な講習の進め方と方法」に記載の当日の課題設定や宿題決めを体験したりする。
- ②学習カード・言葉・「①」の学びの種を軸に生徒本人に合った個別のプログラムで講習を展開する。

### 4 回目（体験）

- ①3 回目までの生徒本人の様子や状況、学びの種の展開状況を踏まえて、生徒本人に合った学びを深め、「4. 一般的な講習の進め方と方法」に記載の当日の課題設定や宿題決めを体験する。
- ②学習カード・言葉・「①」の学びの種を軸に生徒本人に合った個別のプログラムで講習を展開する。

### 5 回目以降（正規受講）

- ①体験での 4 回目までの様子や状況、学びの種の深掘りや展開状況に応じて個別に対応するなかで、「4. 一般的な講習の進め方と方法」に記載の当日の課題設定や宿題決めの経験を積み重ねる。

\* 生徒の適性や状況に応じて必ずしもこの計画どおりにならないこともある。

\* 継続中での生徒本人の学びの状況に応じて、1 対複数のオンライン学習室への以降を提案・検討する（オンライン学習室：5,500 円／月）。



## 6. 推奨している自宅学習（宿題）

- 一日一文：一日に一文以上、「文」を書く。  
\* 作文への抵抗感をなくすことがねらい。

## 7. テキスト関係

- 受講に際して、基本的にテキストの購入はありません。
- 購入が必要な場合は、生徒本人や保護者様とご相談のうえ、市販のものからご家庭でご購入いただきます。

### 〈テキスト利用について〉

- すでにお手元にお持ちの学校の教科書や参考書、問題集などから適宜利用します。
- 講座のなかでのコミュニケーションをとおして、生徒本人のなかから「教材」を見出します。
- 生徒本人の適性やニーズを把握するなかで必要に応じて、オリジナルプリントなどの教材を個別に作成します（オーダーメイド）。

## 8. テキスト以外の必要なもの

\*すべて 100 均で購入可能。

### 〈学習カード等の作成用〉

- |                            |                                 |
|----------------------------|---------------------------------|
| ①画用紙                       | 【用途】カードや貼り出しに使う                 |
| ②カード（白紙と方眼・ミニとそのワンサイズ大きいの） | 【用途】フラッシュカード・学習ゲームでのトランプやカルタに使う |
| ③2穴 穴開けパンチ                 | 【用途】フラッシュカードの穴開け用               |
| ④リング                       | 【用途】フラッシュカードの留め具用               |

### 〈学習の記録用〉

- |        |          |
|--------|----------|
| ⑤専用ノート | 【用途】本講座用 |
|--------|----------|

## 9. その他

- 日々の生活や学習、お子様に関する役所の手続きやその他機関の紹介などの相談サポートは無料。  
\* 予定が合う時は役所や他機関同行や同席も可。  
\* 同行や同席については、時期の忙しさによって対応できる内容や頻度に差は出る。